

おすすめ本

奥田 智 教授
(教職実践演習)

(1) 学力の経済学 中室牧子著

ディスカヴァー・トゥエンティワン 2015年

最近、一部の自治体では全国学力・学習状況調査結果と教員の手当を連動させる動きがありますが、どうすれば子どもたちの学力が上がるのかは、教育に関わる者にとっては永遠の課題だと思います。本書はその課題にエビデンスを用いて教育を経済的に分析しています。例えば「テストでよい点を取ればご褒美」と「本を読んだらご褒美」どちらが効果的かについては、ハーバート大学のフライヤー教授のご褒美実験結果、教育を成果主義にすることによって教員の質が上がるのかについては、アメリカのイリノイ州で行われた「ボーナスを得るまたは失う実験」を紹介しています。それ以外、少人数学級の効果、いい先生とはどんな先生等についても、エビデンスをもとに述べられています。教育を経験や情熱で語ってきた私自身にとってある意味新鮮な本でした。

(2) 東大生となった君へ 田坂広志著

光文社新書 2018年

本書において特に注目したのが第3話「東大卒の半分以上が失業する時代が来る」でした。実社会で「活躍する人材」になるためには、「基礎的能力」「学歴的能力」「職業的能力」「対人的能力」「組織的能力」の5つの能力が示され、東大卒の人は「基礎的能力」「学歴的能力」については優れていることが保証されているがそれ以外の能力は未知数であるとし、AI社会が間もなく到来する中で「基礎的能力」「学歴的能力」はAIに取って代わられるであろうと述べています。「職業的能力」「対人的能力」「組織的能力」をしっかり身につけておかなければ東大生であっても生き残れない時代がやってくるとも述べられています。

逆に考えれば東大生でなくても、「職業的能力」「対人的能力」「組織的能力」を大学時代にしっかり身につけたものは「活躍する人材」になりえるということだと思います。大学時代にいろいろなことに挑戦し、学内外の人々と関わりを持ち、知識や技能のみならずコミュニケーション力やプレゼンテーション力等を身につけましょう。